

みでの

永平寺町議会
だより



永平寺町議会
facebook

永平寺町議会

検索

第69号 INDEX

令和5年2月3日発行

新年議長挨拶 P2

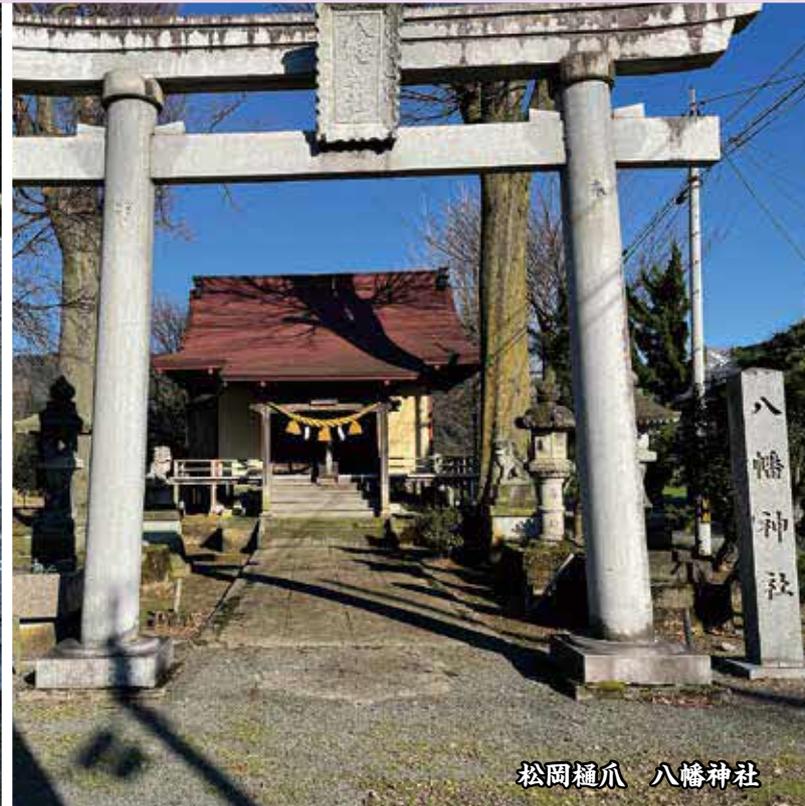
視察レポート 学校再編計画を考える P3~4

そこが聞きたい! 議員12人が一般質問 P11~17

議会活動レポート P18~19



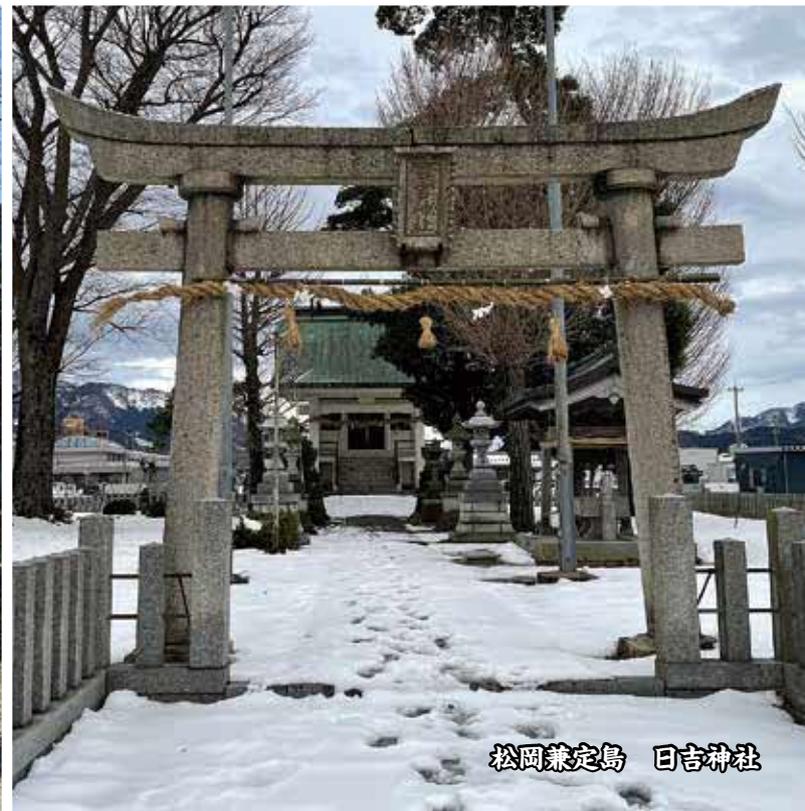
松岡領家 諏訪神社



松岡樋爪 八幡神社



松岡渡新田 日吉神社



松岡兼定島 日吉神社

特集 学校再編計画を考える

視察レポート

少子化に伴い、本町においても「学校再編」の論議が活発化しています。合併後、初めての学校統廃合論議ですから、議会も慎重に進めなければならないと考え先進地視察を行いました。学校の統廃合では、その賛否を巡り地域を二分する論争や、過疎化に拍車がかかるなど地域の大きな問題となります。視察先の岡山県勝央町は、直近5年間は年少人口が微増に転じているところです。また、同県高梁市は、文科省が主催する「令和4年度学校魅力化フォーラム」で事例発表されたところです。

勝央町

“ほどヨイ！田舎 ーがん勝央”
来てみんちやい！ 住んでみんちやい！

勝央町は面積54km²、人口約11000人と小さな町です。平成の合併は行わず、昭和29年に1町4村が合併しました。町内には中国自動車道のJCTがあるため、早くに国営事業の中核工業団地が整備され、30企業、2800人が勤めています。それでも人口減少傾向に歯止めがかかりません。特に、農村部では農業従事者の高齢化や担い手不足が進んでいるため、農業や文化などを生かした体験交流の機会を設け、交流人口・関係人口の増加と移住・定住の促進を図っています。



勝央町役場前にて

1. 「“ほどヨイ！田舎” 来てみんちやい」 事業

町内農家と連携し、特徴ある農業を体験してもらい、その魅力を感じてもらいます。ぶどう農家が就農希望者を親身に指導し、新規就農者が安定した経営ができるよう、農園の貸与や譲渡をしています。現在までに、町外10名、8家族が新規就農され、ぶどう農家の事業継承となっています。

2. 「“ほどヨイ！田舎” 住んでみんちやい」 事業

U・I・Jターンや田舎暮らし、新規就農を希望する人など住んでみたいという人を対象に、空き家等を有効活用した「お試し住宅」を一定期間提供して、移住・定住を促進しています。平成29年から令和3年までに22組がお試し住宅を利用し、そのうち9組が定住されました。



岡山県が推進する就農支援

この視察で感じたことは、移住・定住希望者に選んでもらうため、地域の魅力を様々な方法で全国にアピールすること。また、その魅力は物や金だけではなく、受け入れる地域の方の心意気が重要ではないかと思った。

新年議長挨拶



永平寺町議会議長

中村 勘太郎

新年明けましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新春をお迎えのことと心からお喜びを申し上げます。

また、当議会に対する平素からのご理解ご協力に厚くお礼申し上げます。

さて、昨年は、当町議会の議員任期満了に伴う選挙の年となり、合併後初の無投票による町議会議員改選となりました。初当選議員5名を迎え、昨年8月に開催した令和4年第5回臨時会において各委員会構成等の議会組織を一新し、早や5カ月が経過したところでございます。昨年の町議会議員選挙立候補者の状況を鑑み、議員のなり手不足を議会改革のテーマに加え、次の議員改選を目的に町会議員に立候補し易い議会環境及び対応等について特別委員会において調査研究を進め、何らかの対応を図る所存でございます。

近年の人口減少社会及び更なる進展が見込まれる少子化の影響を鑑み、小中学校における児童生徒の学校教育に関し令和元年度より慎重且つ専門的な見地から協議、検討されました。

「永平寺町学校のあり方検討委員会」答申が昨年3月に教育長に提出されました。この答申を受け学校再編方針素案が、議会に説明され、再編対象となる学校の保護者との意見交換会が開催されたところです。当議会は、昨年8月から小中学校再編を審議する「学校再編検討特別委員会」を設け、昨年中に3回開催しておりますが、議会全体として学校再編についての意見を早急に示すことが重要であると考えます。

また、昨年4月に上志比地区の過疎地域指定が公表されました。全国的に人口減少化に向けた取り組みが求められる中、過疎地域指定による国の財政支援を求めることができますので、これを有効に活用し実効性ある地域活性化のために必要な取組みが推進し易くなります。人口減少化対策に向け、地域を再生し更に活性化させる取組みのため、議会の立場から行政と共に均衡ある町の発展のため努力したいと考えております。

本町では、河合町政のもと、子育てし易い、防災減災に強い、誇れるまちづくりのために各種町政の取組みが実践されています。議会と致しましては、行政と共に地域にお住まいの皆様への安心安全を第一に議会としての取組みに努める所存です。本年も、昨年同様温かいご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、町民の皆様にとって、本年が健やかで実り多い一年となることを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

令和5年 元旦

令和4年 第7回臨時会報告

令和4年第7回永平寺町議会臨時会は、10月28日（金）に開催されました。審議された内容は次の通りです。

第7回臨時会議案

承認第11号 令和4年度一般会計補正予算の専決処分の承認について	承認	議案第61号 令和4年度一般会計補正予算について	可決
-------------------------------------	----	-----------------------------	----

議案61号 令和4年度一般会計補正予算について

総額 **4億4,674万円**

【主な項目】 地域スポーツチームによる地方創生支援事業補助金 1,800万円
生活応援券事業補助金 1億9,640万円

生活応援券事業
問 町の直接事業か。商工会と提携するのかが。答 令和元年度に実施したプレミアム商品券の事業と同様に、商工会に補助事業という形で実施する。商工会のノウハウ活かしたい。今回は登録店全てで共通して使える3,000円と、小規模店のみで使える2,000円に分けた。

地域スポーツ振興への企業版ふるさと納税の支援
問 クラブチームは財政的に大変な状況もあると思うが、資金が集まらない場合の対応か。答 あくまでもそのプロスポーツチームを財政的な支援に企業版ふるさと納税を活用する。ブルーサンダーのチーム自体の経営については、その会社がしっかり経営を担っていくことになり、永平寺町がこの福井永平寺ブルーサンダーの経営には関わることはない。

令和4年 第8回定例会報告

令和4年第8回定例会は、11月28日（月）～12月16日（金）までの19日間開催されました。慎重に審議を行い、可決した内容は次の通りです。

第8回定例会議案

議案第49号 令和3年度一般会計及び特別会計の決算認定について	認定	議案第70号 幼児園条例及び幼稚園条例の一部を改正する条例の制定について	可決
議案第50号 令和3年度下水道事業会計の剰余金処分及び決算認定について	認定	議案第62号 令和4年度一般会計補正予算について	可決
発委第3号 令和3年度決算認定に係る決議	可決	議案第63号 令和4年度介護保険特別会計補正予算について	可決
議案第68号 一般職の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例の制定について	可決	議案第64号 令和4年度町立在宅訪問診療所特別会計補正予算について	可決
議案第73号 令和4年度一般会計補正予算について	可決	議案第65号 令和4年度下水道事業特別会計補正予算について	可決
議案第71号 指定管理者の指定について	可決	議案第66号 令和4年度農業集落排水事業特別会計補正予算について	可決
議案第72号 指定管理者の指定について	可決	議案第67号 令和4年度下水道事業会計補正予算について	可決
議案第69号 職員の定年引上げに伴う関係条例の整備等に関する条例の制定について	可決		

議案への賛否一覧 議席順に掲載（賛 賛成 反 反対 一 欠席 □ 退席）※議長（中村勘太郎）は採決に加わりません

	酒井	長岡	川崎	朝井	清水紀	金元	森山	清水憲	滝波	齋藤	上田	松川	楠
議案第49号	賛	賛	賛	賛	賛	反	賛	賛	一	賛	反	賛	賛
議案第70号	賛	反	賛	賛	賛	反	賛	一	賛	賛	反	賛	一

※反対または退席があった議案だけ載せています。したがって、その他議案等13件については全員賛成です。

視察レポート

高梁市

ただ再編を待つのか その前にすべきことがある（逆襲）

高梁市は面積547km²で県内4番目の広さを持ち、人口は昭和25年の75800人をピークに減少を続けて現在28000人ほどとなっています。平成11年から28年に、小学校7校と中学校1校を他の学校と統合し廃校にしました。しかし、大きな問題が起こり、市は学校再編に対する基本的な考え方と再編の前にすべき教育の充実を学校再編推進審議会に諮問し、平成30年に答申を得ました。

1. 教育環境を確保するための小中学校再編の基本的な考え方

- 小学校 原則として全校で2学級以下が継続的な状態
- 中学校 原則として1学年の生徒数一桁が継続的な状態



再編協議の進め方

- ①再編の対象年度の3年前から準備委員会を設置し協議する。
- ②地元（PTAやまちづくり協議会等）から再編の要望があった場合は、上記の基本的な考え方によらず準備委員会を設置し協議する。
- ③準備委員会では、再編ありきではなく、再編しない場合の選択肢も検討する。

この最低とも思える再編基準にしたことで、地域から準備委員会設置の要望が出てきています。この準備委員会では、この地域にとってどういう教育環境が良いのかの方向性を決めていただくもので、決して再編ありきでの協議会ではありません。教育委員会は、その方向性を決めるためのお手伝い、すなわち単式学級とか複式学級、小中一貫校、義務教育学校、小規模特認校などの制度を説明し共通理解の上、活発な協議をしていただくよう努めています。実際、小中一貫校や小規模特認校も保護者や地域住民が決めて実施しています。

2. 教育目標を達成するための教育施策のあり方

教育の充実では、特に地域との連携強化を図るため、コミュニティ・スクールを推進しています。例えば、路線バスの利用者を増やす方法とか、備中牛の地元消費の拡大など、地域の課題を生徒自らが現場に足を運び実態調査、その後解決策を実践していく取り組みです。学校と地域の目的が一致し、地域に関わることで地域を愛する心と、社会の発展に積極的に貢献できる力を身につけるねらいがあります。最後に高梁市の職員が次のような話をしてくれました。新型コロナで卒業式に出席できない住民が、幼稚園児と共に約50人「サプライズ卒業式」として玄関前で卒業生一人一人の名前とお祝いメッセージを書いたプラカードを持って、出迎えてくれました。思わず涙ぐむ子や「大好きなこの町に大きくなって恩返しをしたい」という子もいました。



高梁・巨瀬小学校「サプライズ卒業式」

この視察で感じたことは、学校の再編を決めるのは保護者や地域住民であり、その過程は透明で計画性に満ちたものでなければならないこと。また、再編の前になすべきことがある。それは、学校の児童生徒数に限らず、どんな状況でも一人一人の子どもに充実した教育が受けられるよう、最善の方策を考え実施することが大切だということでした。

令和4年度一般会計補正予算審議報告

一般会計補正予算

総額 **1億3,284万円**

【主な項目】	金額
企業立地促進事業助成金	5,624万円
出産・子育て応援交付金事業	1,906万円
中山間農業集落支援事業	323万円

主な質疑応答

一般会計補正予算 第1審議

◆総務課

問 松岡公園駐車場の自損事故について、全国町村総合賠償保険に加入しているにも関わらず、なぜ別に町が弁護士を立てなければならぬのか。また成功報酬がかかってくるのか。

答 当事者は町で、町が弁護士を依頼することになる。また成功報酬については保険の方で補填される。

◆契約管財課

問 物価高騰による施設管理費だが、四季の森の補正額が他と比べ大きいのは理由があるのか。



四季の森複合施設全景

答 使用頻度に関わらず、施設の大きさや冷暖房の種類などによって変わってくる。今後、省エネ機器の導入などで対策を取っていく。

◆総合政策課

問 企業立地促進事業助成金について、町にとつてどれほどの経済効果を見込んでいるのか。

答 3年間の助成金合計が8000万円程になるが、毎年900万円弱の固定資産税が入るので、9年ほどで助成金は回収出来る。それ以外にも地域雇用が増えるなど経済効果は金額以上の意味がある。

◆農林課

問 新規就農者支援事業助成金について、3年間の金銭的支援だけで大丈夫なのか。

答 県、町、JAがサポートしている。相談があれば寄り添っていきたく。

◆商工観光課

問 道の駅工事で、県の地域みらい応援プロジェクトを活用している。対象事業は。

答 補助対象事業3つのうち、今回は「地域資源の磨き上げ」に該当する、道の駅駐車場の造成工事に対する県の助成金になる。

◆住民税務課

問 確定申告の受付内容の返答と

答 不動産売買・投資・住宅ローン控除についても今までは町で対応していたが、内容が複雑なので税務署での申告に変更。確定申告の内容が簡易な人は郵便での申告手続きを案内する。

問 戸籍システムの改修は何かどうなるのか。また、法務局への移送

答 令和5年度中に全国どこでも戸籍情報取得可能となるためのシステム改修。紙ベースからPDFの電子データで移送。



道の駅駐車場

◆福祉保健課

問 生活しづらさ調査での対象者は。

答 国勢調査に準ずる調査で、神明1丁目全世帯が対象。調査内容は国が決定。

◆フレイル予防の活動は。

答 フレイル状態を無くしていく活動。20余名のサポーターが活動。健康診断の時に活動。

問 視力検査用に機械導入で6カ月から6歳まで検査可能。3歳児健診で検査を実施しているが、3歳以前に機械を活用して検査はしないのか。

答 機械を使つての検査は、3歳児健診でのメニュー。3歳児以前の検査メニューではない。

◆子育て支援課

問 NPO法人かさじぞうへの補助金で補助対象事業は。

答 子どもの見守りが基本。宅食と子どもの居場所づくりでの学習支援費用。実績については次回から示す。

問 出産子育て助成金の交付は、令和4年4月に遡及するが、本町の体制が今なのか。伴走型相談支援の強化とは。

答 国の閣議決定により、12月の補正となった。伴走型相談支援は国から示された内容により対応。



かさじぞう学習支援

問 子ども見守りで、県の学習支援との違いは。対象者の選定基準は。長期休暇中の取り扱い。

答 県の事業は生活困窮者向けの学習支援。対象は申請により選定。宅食は当初福祉課で困窮者を対象としていたが、門戸を広げた。誰でも利用できるものではない。長期休暇中は朝から学習支援をしている。

◆学校教育課

問 学校での歯科検診。報酬を1万円値上げ。歯科医の報酬は。

答 現状は1校当たり7万円+300円×児童生徒数を1校当たり8万円+300円×児童生徒数に変更。

議案第49号「令和3年度一般会計及び特別会計の決算認定について」

一般会計

歳入総額 **102億2,632万円** (前年度比11.7%減)
 歳出総額 **97億4,330万円** (前年度比13.3%減)

歳入歳出とも前年度を下回る予算規模となった要因としては、新型コロナウイルス感染症対策として特別定額給付金支給時業が完了したこと、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金が減となったこと等があげられる。実質収支額は4億4,539万円の増で黒字決算となっている。

特別会計

歳入総額 **51億2,204万円** (前年度比1.6%増)
 歳出総額 **48億5,144万円** (前年度比0.1%減)

議案第50号「令和3年度上水道事業会計の剰余金処分及び決算認定について」

決算額 **3億9,272万円** (予算額3億7,552万円に対し収入率は104.6%であった。)

問 ふるさと納税について。

答 ふるさと納税は従来どおり、返礼品を充実させることが寄附金の増につながる大きな要因と考えている。

問 マイナンバーの問題。

答 個人情報取り扱いについては規定とか、そういうところでやってはいけないことも決められているので、それをしっかり守っていく。

問 高齢者を中心にいろいろな詐欺が起きている。被害も被っている。

答 町民の方が被害に遭わないのが一番だと思う。被害にあった場合に相談がすぐできるということを認識してもらおうのが一番大事と考えている。

問 公共施設や町有地の草刈りなど、維持管理しやすい管理方法はないのか。

答 公共施設や町有地の管理については、主に除草管理が中心であり、シルバー人材センターにより人力による草刈り機で作業となっている。

問 ふるさと応援基金。今後の方向性や可能性は。

答 令和3年度末で、ふるさと応援基金4824万2千円の積立である。内訳として、大学支援として3824万2千円、観光振興として1

答 前回の豪雪の場合には、広域的な支援もあると反省している。

問 松岡幼稚園園庭の空洞の件は、専門業者の言いなりで進めてしまったのではないか。

答 決してこの調査が不備だったとは考えていない。擁壁は調査結果を理解してほしい。

問 コミュニティバスで60歳以上は無料バスがあるのに、子ども達は未だに半額の負担だ。機会均等ではない。

答 鉄道や路線バスの料金は小学生までが半額だが、コミュニティバスの料金は、中学生までが半額となっている。

問 学校の統廃合を、期限を区切らないでするのがよほど問題だという答弁があるが、非常に心外だ。

答 少しでも早く再編を進めていきたい一心。

問 社会教育会議で、あまり活発な意見が出ていないと聞いたことがあるが。

答 根本的な意見交換を遮っていることは一切ない。

問 公民館利用者数が各公民館その割合が極端に違うが、どう分析しているか。

答 令和3年度、2年度、確かに人数は減っている。コロナ禍もあり、一部施設の利用をやめていた時期もある。

000万円。

これまでに大学補助金として2569万9千円、観光支援として250万円、診療所に190万円など、事業財源として取り崩す予算措置をしている。

今後、事業内容に応じて基金の活用をしていく予定。

問 コロナ禍で苦しい生活を強いられている町民や商工農者に還元すべき。

答 事業継続応援給付金、また経営環境改善支援補助金などの事業者支援、クーポン券を使った観光・飲食業の支援、水道料金の減免やスタンプリー等生活支援など、農業関係者、商工業者とも協議しながら事業を実施してきた。今後も必要となる事業については実施していく。



スタンプラリー

問 移住定住促進事業。情報発信の効果をどのように分析しているか。

答 県内からの転入の状況は微増で、増加傾向である。移住定住交流会、あとはメディア等を活用した情報発信が必要であると考えている。

問 町単独で4つの交通移動手段をどのように地域のニーズに合ったものとして組み立てていくのか。

答 えちぜん鉄道、京福バスについては、継続していくような形になると思う。近助タクシーは、地域の方の声を十分反映させて継続していく事業である。また、自動走行については、国の実証実験であり、方向性について今後協議して進めていく。

問 子ども見守り宅食支援事業補助が増えるのではないかと、また、配食するだけでなく見守りがどんなふうに改善されていくのか、外出支援の統計はないのか。

答 宅食の事業は見守りも兼ねて配食していくもの。展開についてはケースバイケース。外出支援は99%が医療機関の受診。

問 コロナ禍で社会福祉協議会ら、各種福祉団体の経営状況は調査されているのか。社協は大きな赤字だというが、小規模介護施設や通所施設の状況も示してもらいたい。

答 経営状況は調査という形では実施していない。令和元年度から2年



やすらぎの郷

度は約3200万円増額、3年度も3000万円の増額と給付費は増えている。通所系は減額になっている。

問 やすらぎの郷を分離して運営すれば年間500万円いる。社会福祉協議会の負担増になる。

答 社協の本分として地域福祉推進の観点は、お互いに確認している。今後も車の両輪として頑張っていく。

問 社協の位置づけを見直さないといけない。

答 社協の動向は、新たな展開が必要だと認識している。

問 雪下ろし支援について、高齢者は困っている。制度として利用しにくいと聞いている。

議案への賛否討論

議案第49号 令和3年度 一般会計及び 特別会計の決算認定について

反対討論

上田 誠

少子高齢化が進む社会にあって、持続可能な社会づくりや住民の安全安心が求められる中、コロナワクチン接種や、社会経済の支援、住民のための各課の事業や施策への対応は評価するも①住民の健康を守るための横断的な連携が不十分②住民の主体や地域連携又交流の場にもなる幼保、小中の統廃合に対する進め方③公共施設（公民館、えい坊館、笑来）の施策、特に永平寺地区の公民館の在り方運営の不十分④IT拠点化、自動走行等費用対効果の検証やソフト面の充実不足から決算認定に反対の立場を取る。

反対討論

金元 直栄

必要な内容もあるが、①小・中学生の通学にコミュニティバス利用が無料になっていない。②会計年度任用職員の保育士など、国の示した半分しか賃金が引き上げられていない。③結局この年は、異常な米価下落への支援はなかった。④幼・保の統廃合や民営化、結局しわ寄せは保護者へとなる。強引で急ぎすぎる公立園の廃止も問題だ。⑤学校の統廃合を進めるというが、地域をどうするかは未だに示されていない

議案第70号 幼稚園条例及び 幼児園条例の一部を改正する 条例の制定について

反対討論

金元 直栄

松岡市街地の園の再編というが、民間の大規模園に子どもを集める統廃合になっている。民間園は定員120名に言ったこともあったが、大規模園へと膨れ上がった。コロナ禍でもあり、それなりの規模の園が求められているのに、早々と条例から西幼稚園や松岡幼稚園の廃止には反対する。



民間園

再生エネルギー活用の検討

総務産業建設常任委員会 委員長 酒井 圭治

年間テーマの一つとして『議会と防災対応』については10月20日に各議員に対して安否確認と状況報告を実施、メール送信による連絡が取れることを確認した。

また『再生エネルギーの活用』を調査する目的で11月1日に県内の現地視察を行った。

視察地は、おおい町の南川サイフォン式水力発電所、既存の砂防ダムを活用して昨年12月に本格稼働しており、現在は事業も軌道に乗り始めている。

建設に関わったのは複数の住民団体で、エネルギーの地産地消として小水力発電を選択した。今後、売電で得られた収入の一部は地域の活性化に還元する予定。

2件目の視察研修先は小水力発電の技術面の研修を行うため、福井市の荏原商事のご厚意にて東京とのオンラインにて研修、今後の永平寺町内における機器や適地の可能性を学んだ。

今後、将来に向けた再生エネルギーを普及促進するという目標を達成するためには、立地にかかる

規制やゾーニングなど多くの関係者との合意形成も必要で、関係条例も検討が必要となると予想される。

将来の住民自治の一環として、かかる地域資源を活用し、SDGsやゼロカーボンシティの取り組みにより住民自らが挑戦でき、国、県、永平寺町の再生エネルギー促進政策にもその改革を求めながら、地域電力を立ち上げ電力供給できるような進めることが指標となると考えられる。また、このことは多くの関係者が参加することによって地域経済の発展にも寄与することとなると考えられ、促進に向けての検討を継続する。



おおい町小水力発電所見学

令和5年活動方針

教育民生常任委員会 副委員長 長岡千恵子

新型コロナウイルス感染症

ワクチン誤接種に関する報告

12月6日に発生した、新型コロナウイルスワクチン誤接種に関する報告は、モデルナ社製ワクチン0.5mlを接種しなければいけないところ、誤って、0.3mlを接種した。接種対象者は24人。接種者の体調異変の報告はない。接種医師の判断で、ワクチンの接種量は少ないが、抗体は厚労省見解のとおり1回の接種とみなす。

1. 令和4年度及び令和5年度の視察について

令和4年度 再編により学校が無くなった地区住民との懇談及び小規模特認校になった学校視察とその地区住民との懇談。令和5年度 県教育委員会は、不登校特認校の設置について各市町に要請している。全国に二十一校がある。そのいずれかはどうか。

2. 令和5年度学校再編への課題

学校の統廃合が課題ではなく、地域の子どもの少ないことが課題。保護者説明会での町長の前向きな発言がない。学校を統廃合する前にやるべきことがある。

3. 議会と語ろう会の開催について

保護者と地域住民の間で話し合いはできていない。保護者だけで決めていいのかが。保護者と地域住民が一緒に話し合うべき。行政が説明会を開催し、議会が語ろう会を開催すれば住民は煩わしいのでは。地域が分断することは避けたい。

4. その他

禅の里温泉の指定管理者の承認後の本契約後に、リスク管理と費用分担について協定書の提示を求める。

問 観光政策の方向性

答 禅をしっかりとPRする



森山 充 議員

問 円安が進行している現状、第二次永平寺町総合振興計画の中で数値として示している観光客入込数は現段階でどのようになっていくのか。目標指標として示してある観光客入込数の達成見込は。達成に向けた方向性は。

指したい。町としては禅をしっかりとPRして国内外観光客の誘致につなげたいと考えている。

気代およびガソリン価格高騰が想定される。町では家計支援として町民1人当たり5千円分の生活応援券の配布を行う。また、水道基本料金の減免を6か月間実施している。

問 商工観光課長

計画の中間である令和3年の実績で52万9千人となっており、目標値の約52%といった状況である。コロナで観光需要は大きく落ち込んでいたが、今年は前年比3割程度の増加を見込んでいる。県内新幹線の開業など誘客イベントも続いていくので、町内観光産業関係者と連携して令和8年目標の105万6千人を目

長引くコロナと物価高騰、原材料費の高騰に加え、電気料金の値上がりといった新たな負担が加わることを危惧している。町内事業者で組織する経済産業活性化協議会の方で情報収集を行い、必要な措置を講じていく。

問&答

12月定例会 一般質問

12名の議員が町政全般について、一般質問を行いました。一般質問は議事録に基づき質問議員本人がまとめています。

Table listing council members and their question times: 森山 充 ... 11P, 酒井 圭治 ... 12P, 楠 圭介 ... 12P, 朝井征一郎 ... 13P, 長岡千恵子 ... 13P, 川崎 直文 ... 14P, 松川 正樹 ... 14P, 上田 誠 ... 15P, 金元 直栄 ... 15P, 齋藤 則男 ... 16P, 清水 紀人 ... 16P, 滝波登喜男 ... 17P

一般質問 目次

町内観光産業関係者と連携して令和8年目標の105万6千人を目

品を講じていく。町民生活には食品の値上げ、電



円安報道

幹線道路、生活道路網の整備

地域住民の意見も聞き事業も見直す



酒井 圭治 議員

問 永平寺インター線、納戸坂線の現在の進捗状況は。

建設課 永平寺インター線についてはコロナ禍で中断していたが、東古市区まちづくり協議会との話し合いを本年10月に行った。現在の課題として、えちぜん鉄道の踏切、用地交渉があるが、今後、地域住民の声を聞き事業見直しも含め対応したい。同じく、松岡地区の納戸坂線も重要路線として位置づけられており、福井市や岡保地区との交渉が課題となる。当該路線については、現在も知事への重要要望事項として申し入れを行っており、各事業の早期実現に向けて取り組んでいる。

問 地域の価値と林業政策について。

農林課 令和元年度から、人材育成、担い手の確保、木材利用の促進などの森林整備及びその促進を目的に森林環境譲与税が交付されている。



市野々山林

問 林業経営体制の効果・成果は。

農林課 昨年度に意向調査を行った地区で、「維持管理を町へ委託したい」と望む回答が大多数を占めていたため、今年度から次

段階となる森林経営計画策定に向けた地元説明会などを行っている。

【その他の質問】現在の町有林の面積と管理は。

答 いろいろな面で国を挙げて取り組んでいるので、しっかりと対応していきたい。

地元出身者転出の根本的な原因

色んな形で情報収集をしていく



楠 圭介 議員

問 転出に直結する根本的な原因・要因を行政としてはどのように分析しているのか。また、その調査を現在、誰を対象に、どのような形で、どれぐらいの人数に行っているのか。そして、今後の対策とは。

総合政策課 住民税務課の窓口で手続きに来た方から任意でアンケート調査を令和元年度から実施している。調査の項目については、転出前の地区、転出先、転出者の年齢、転出の理由。3年間の回答数は転出者全体の約30%に当たる500人。アンケートの結果を見ると、24歳から30代の転出が全体の57.2%を占めている。

この年代の転出理由を見ると仕事や結婚が大半で、今後の対策としては、家計負担減や共働き支援といった子育て世帯を呼び込むための施策を継続して進める。そして、子育てニーズを把握するために、これからも色々な形で情報収集をしていく事が重要だと分析している。

町長 色々な視点で魅力ある町づくりをしていくことが大事だと思っっている。まち・ひと・しごと創生総合戦略を7年前に作り、戦略的に施策を進めてきた中で、ようやく選ばれた町になってきた。ただそれは今、松岡地区に限ったこと。これを次の永平寺地区、



上志比地区にどう落とし込んでいくかを今後実施していきたい。提案 ハード面では隣の福井市や坂井市には勝てない。若い年代の転入促進と転出抑制のために、ソフト面のコンテンツ充実を期待する。ソフト面で、どれだけ近隣市町と勝負できるかを私自身も更に勉強していきたい。

少子化人口減少対策について

移住・定住に伴う助成、補助、子育て支援策を



朝井 征一郎 議員

問 コロナ禍で少子化・人口減少が一層進む中で、少子化・人口減少を克服するための具体策を。

総合政策課 少子、高齢化、人口減少をストップさせることは厳しく、今後は移住・定住に伴う助成、補助を継続し、転入を考えている子育て世帯へ魅力的な子育て支援策の情報発信し、転入増につなげ、減少幅を極力少なくする。人口減少が進む地域を対象とした施策として、土地の流動性を促進するため、土地を売却、取得する場合、老朽化した空き家の解体・撤去費用の補助、土地・住宅取得への補助ができるか検討をしている。

問 不登校児童生徒の教育環境について、新型コロナウイルスの流行が繰り返される中で、修学旅行、遠足、運動会、文化祭などの中止や自粛など、日々の学校生活も制限され、いじめ、不登校などのコロナ禍以外の原因もあるのではないかと思われる。

不登校児童生徒の学校以外での学習を自治体が支援し、学びを与える環境が必要ではないか。教育長 不登校児童生徒の学びを支える活動として、タブレットによるオンライン授業の配信。学校外の公共施設を利用した個別学習支援。学習支援員による個別学習支援を行っている。

また、子育て支援課、福祉保健課、そして関係機関と協力しながら、保護者対象の相談活動も行っている。財政課長 全天候型の遊び場を整備する場合、県が各市町に対し1億円を上限とした補助金を交付する令和8年までの事業で対応ができる。幼稚園、幼稚園の跡地利用、本町でも子どもの遊び場整備検討会を設置し検討している。

過疎債等補助金も使って整備をしていきたい。

来年度に向けての保育士の処遇は

職員の希望に沿える体制で



長岡 千恵子 議員

問 保育士が振替休日や年次有給休暇を取得する場合の対応は。

子育て支援課長 集団遊びやクラス合同での活動などの保育計画を立て、安全に遊べるよう工夫して保育シフトを組み対応。

問 2園の閉園で保育士に余裕ができる。

園長と主任保育士は担任を外しては。園児が受益者となる支援として保育士の配置の拡充を。

子育て支援課長 余裕のある保育士の配置が可能。各園の園児数が確定後に主任保育士の人数や職務を検討。

問 会計年度任用職員に寄り添った対応を。

町長 会計年度任用職員にも永平寺町の子育てを支えてもらっている。皆さんの希望に沿えるような体制をとる。

◆志比北小学校保護者説明会を受けて

問 当初は1回の説明会を予定していたが、2回目開催への経緯は。

教育長 1回目の意見交換会后、保護者の意見や要望に回答を求められ、また、回答に対する意見を伺う必要があると考え、2回目を開催した。

問 保護者説明会を終えて、町長、教育長、学校教育課長の感想は。

町長 保護者の話をまとめて方向性を示し、地域へ入る。地域の意見を保護者に伝える

という手順になると思う。話をしっかり聞き原案を変更していく。教育長 児童と保護者の不安を解消しないといけないと強く感じた。学校行事や教科間の交流を積極的に行う。

学校教育課長 再編にあたっての不安が大きかった。原案、現日程で押し進めるというのが印象。このままで進めるのか。

町長 原案を基に議論と説明をするが、意見を聞いて柔軟に対応する。



保護者説明会

問 地区振興協議会等の設立と支援は

答 5地区で設立済、2地区が設立へ

問 現在、活動している地区振興協議会等の状況は。

生涯学習課長 以前より設立されている吉野地区、御陵地区、志比北地区、上志比地区に加え、令和2年4月より永平寺地区の光明寺、花谷、谷口、高橋の4地区連絡協議会が設立されている。

地域の清掃、美化活動、体育祭の実施、公民館とタイアップしてのイベント、地域の魅力を活用した事業、広報紙の発行などを行っている。

問 地区振興会の組織化の到達目標が7地区。今後の組織化は。

生涯学習課長 来年の2、3月に設立できる組織、周辺の自治会に働きかけ、より大きな組織を模索する既存の組織、来年度に協議する地域がある。

問 創生総合戦略の「地域組織の育成に より、まずは『ひとつくりに』への取り組み」は。

生涯学習課長 ひとつくりに含めて地域づくりの活動を支援する事

第4次永平寺町行財政改革大綱	
令和3年3月	
内容・進め方	到達目標(令和7年)
地区振興会を中心とした住民自治の推進 ・地区振興協議会等の設立と支援	地区振興会の組織化 7地区



若者たちが集まり「交流会WAKAMACHI」を12月11日「えい坊館」で開催

【その他の質問】
問 「地区別まちづくり構想」の実現は。
答 今後、各地区振興会、まちづくり団体の方と相談し、進める。



川崎 直文 議員

問 上志比の過疎認定に大きな波紋が

答 上志比地区振興連絡協議会が中心に

問 9月議会で、上志比の過疎認定の問題がいきなり遡上へのせられた。議員の私でさえ、いきなり感があつた。地元の方からは寝耳に水だったとショックの様子。せめて町長自身が、この危機に行政と地元と議会が一体となつて力を合わせようという伝え方だったらいのと思わざるを得なかった。

起きました。これは仕方がないので、気を取り直すしかない。幸い、既に一日も早く過疎から脱却するため、今後の事業計画を練ってもらっている。課長たちの「永平寺町持続的発展計画」なる40頁の力作だ。後は地元の上志比振興会が

より具体性のある政策を作り上げることだ。そのためには昔からまちづくりには、よそもん、若もん、ばかもんが3つの柱と言われているが、これらの大募集だ。その前になぜ上志比地区が国に過疎地域に認定されたかという数字的データを示してほしい。

総合政策課長 要件の一つとして昭和55年から令和2年までの国勢調査における人口減少率が26%となったこと。また高齢者率が41%、若年比率11%等がある。

問 上志比はまちづくりが集中して、分散してはどうか。どこに集中させるかどこかに決めないと。

答 よそもの、若者、ばかもん色々な方々と連携する。問 どんな公園を作りたいのか。答 望ましい公園像を検討する。問 子どもの遊び場建設に県が1億円の話をどうなったのか。答 町内の公園や公共施設、上志比地区での施設等を視野に。



上志比公民館上志比振興会事務局



松川 正樹 議員

問 統廃合 住民・保護者の要望なのか

答 押し付けでなく議論し、尊重する

問 保護者との2回目の意見交換会では、本音の慎重意見が相次いだ。統廃合の必要性を要望する声ではなく困惑と回避案の意見だと認識した。結果的に生徒数での再編でないのか。

町長 委員会の答申を受け素案を示した。押し付けでなくこれを土台に議論してもらい柔軟に進めていく。教育長 複式学級等手厚い対応をしてきた。今後の学習効果の不安から提案している。

問 議員視察した高梁市では「ただ再編を待つのか、その前にすべきことがある。」で学校存続にむけた各種の試みを実施している。学校は教育面は元より

地域との関係、文化、交流の公共施設としての意義からも必要。教育長 (案)でも学校は地域と共に歩んできたところ。統合ありきでなく皆の意見を伺い検討していく。問 文科省も統合または統合せずに地域の総力を挙げ創意工夫し、小規模校のメリットの最大化とデメリットの克服する選択肢を示しているが。町長 地域の保護者の声を尊重し大切にしながら柔軟に対応する。

◆町民の健康づくりを

町政の柱に
問 「町民の健康を守る」の基本は本人だがこれは町の義務と考え、病気予防や早期発



ヘルプマーク

見・治療のキャンペーン実施を。福祉保健課長 各自が各々の立場や役割で認識できるように啓蒙をしていく。

◆配慮(ヘルプ)マークを周知の町へ

問 車椅子マークはよく知られているが、誘導プレート設置やバリアフリー化をポスター等で周知と実践する町への対応を。福祉保健課長 半数の公共施設で整備済み。ポスター等で周知と実践を計画的に実施したい。



上田 誠 議員

問 小・中学校の再編、なぜ急ぐのか

答 会話し柔軟に対応



齋藤 則男 議員

問 小、中学校の再編、大変重要な問題。再編・統廃合で一番に影響を受けるその当事者は、町の子どもたちだ。子どもたちのためと言うが、本当にそうか。また、地域住民の声が大きいようにも見えない。

答 今、何か急に進めていくと、現状が不備だから、進めるのかとも捉えられます。本当に慎重に考えていただきたい。

町長 しっかり柔軟に耳を傾けて、子どもたちの環境を優先して、時間をかけてやっていくことが大事。

問 もし再編が決定した場合、その準備から再編まで様々なことがある。どれくらいをかけて実施に踏み切るのか。

教育長 統合の期間については、保護者の皆さんの意見を聞きながら、弾力的に対応していきたい。準備委員会を立ち上げ、不安を解消する期間が必要。

【その他の質問】
問 農業に対する施策、農業従事者の高齢化と後継者の問題、町としての取り組みは。

答 農業従事者の高齢化への対策は、国や県の補助事業等を活用したスマート農業の導入を支援している。国や県の後継者問題に対する対策の動向に注視しながら、本町の状況に適した施策の活用を検討したい。

問 町が管理する道路については、町全体を見直し、計画的に新設、改良、補修をすべき。

答 補修の必要性や道路の重要度を加味しながら、計画的にしっかり補修をしていきたい。地元の方々の理解もいただきながら、徐々にスピードアップを進めたい。

問 地域の課題解決に向けてのDX導入は

答 デジタル技術の使い方を見極め進める



清水 紀人 議員

問 地域の課題解決に向けてのDX導入は。総合政策課 将来的に何がスタンダードになるかを見極め導入後に追加投資しない様、見極めていく。DX推進の課題の一つとして、技術に詳しい人材を増やしていく必要がある。

答 DXやデジタル推進に向け導入済み技術・LINEを活用した確定申告の予約や順番通知
・窓口支払いのキャッシュレス化
・ドローンによる森林調査、災害時の情報収集、本庁・支所間でFaceTimeを使って常時接続
・除雪車へGPS搭載による業務支援システム

問 地域づくりからの人づくり
◆地域づくりからの人づくり
町長 こういった活動が活発になってくる火を消さないような、また、広げられるような

取組をしていきたいと思う。
提案 地域づくりや人づくりを考える中で、行政任せであったり、人任せ、誰かのせいになっていないかということも最近考えさせられる。地域や社会、団体、企業、農業、活動を盛り上げようとする人はたくさんいる。人口減少社会を迎える課題解決のポイントの一つとして、自発的に先頭を走っていただける方の支援と応援をお願いする。



問 学校再編の進め方に疑問

答 再編ありきで進めていない



滝波登喜男 議員

問 学校のあり方検討委員会の答申は、児童生徒数のみに焦点を当てたものになっていく。小規模校のメリットにほとんど触れていない。答申書には配慮事項として「とりわけ小学校においては、地区の結びつきが強いことを考慮して、子どもたちの数が減少しても存続の可能性を探る必要がある」と記されている。

答 アンケートでは「子どものより良い成長発達には一定人数が必要である。廃校や休校による統合など、やむを得ないと思うが」の問いに対し、志比北小の保護者の41.7%が「現在の学校を存続させて欲しい」と答えている。再編方針素案は保護者の意向に反している。不信感を募らせたのでは。

町長 答申は作った方の思いが入っている中で、この案を基に議論している。再編ありきではなく、より良い方向を模索している。

問 議会が視察した岡山県高梁市では、児童

教育長 再編ありきで進めているのではな



アンケートの回答結果

テレビ中継で
ご覧ください

3月定例会

生中継

- 2月 27日 (月) 10時～ [本会議]
- 3月 6日 (月)・7日(火)・8日(水) 10時～ [一般質問]
- 3月 9日 (木) 9時～・10日(金) 13時～・13日(月) 9時～ [本会議(第1審議)]
- 14日 (火)・15日(水)・16日(木) 13時～ [本会議(第2審議)]
- 3月 17日 (金) 9時～ [本会議(第2審議)]
- 3月 22日 (水) 14時～ [本会議(第3審議)・採決]

議場で傍聴も
できますよ!

- ★事前申し込み不要
- ★バリアフリー、エレベーター完備
- ★ソーシャルディスタンスでの傍聴をお願いします

○日程は、都合により変更になる場合がありますので、ご了承ください。



11/8 国会要望 於：東京
福井県内 8 町の議長が福井県選出国會議員に
要望書を提出



11/16 金ヶ崎町が視察のために来町
視察テーマ：給食無償化事業



12/5 学校再編検討特別委員会開催
小中学校再編対象校の保護者説明会を受けて
学校再編検討特別委員会を開催した



12/20 年末大掃除
令和 4 年も年末を迎えて、12月定例全員協
議会終了後に議員全員で議場・正副議長室・
円卓会議室・議員控室の大掃除に汗を流し、
新年を迎える準備をした

議会活動レポート

Eiheiji town council activity report

ホームページ・facebookに
随時更新中!



10/6 広島県議会が視察のために来町
視察テーマ：門前再開発整備



10/7 嶺北議長会研修 於：池田町
講演 演題 「新時代の議会の新しい役割」
講師 政治研究大学院大学
飯尾 潤 教授



10/24 市・町議員合同研修
於：鯖江市文化センター
講演 演題 「福井県を挙げたDX推進に向けて」
講師 福井県地域戦略部DX推進監
米倉 広毅 氏
講演 演題 「政局展望
=旧統一教会国会スタートと野党
攻防激化で岸田政権の苦境続く=」
講師 政治ジャーナリスト
泉 宏 氏



10/30 知事要望 於：福井県庁
福井県内 8 町の議長が杉本知事に要望書を
提出



11/1 総務産業建設常任委員会視察研修 嶺南
視察テーマ：小水力発電(再生可能エネルギー)

令和4年度 総務大臣感謝状授与



10月28日

この度、議員在籍35年の総務大臣感謝状をいただきました。これも一重に、地域の皆様方のおかげと心から感謝申し上げます。

この35年間で一番印象に残っていることは、平成の合併時に旧松岡町で、住民の意志を決める住民投票を行ったことです。議員全員が3つの選択肢に分かれて住民投票運動を行ったことです。地域の将来を見据え、どの選択が住民にとって幸せなのかを考え訴えた、貴重な経験でした。

私は議員となり一貫して、地域住民にとって幸せなことかどうか、明確な理由を持って判断し意志表明をしてまいりました。今後も変わることなく議員活動をしてまいりますので、叱咤激励の程よろしくお願い致します。

永平寺町議會議員 滝波 登喜男

知事と語る会

昨年12月5日に円卓会議室において杉本達治福井県知事と我々永平寺町議会議員との意見交換会が開催されました。

各人自己紹介ののち、事前に提出していた質問、意見についての回答をいただき、他にその場でも質疑に応じていただきました。議会中でもあり十分な時間が取れたとは言い難いですが、知事と直接言葉を交わすという貴重な機会を得られ有意義な時間を過ごせました。主な質疑、意見は以下の通りです。



意見 町内3つの都市計画の一本化を願う。

答 規制緩和をして企業が進出しやすいようにしている。都市計画については調整中。

質問 五松橋の架け替え計画の有無は。

答 相生橋も含めて一体的な工事を検討していく必要があるので、すぐに架け替えは難しい。

質問 福井県の属する地域に一貫性がないが。お考えは。

答 煩雑な面もあるが独自性を維持しつつ、多様な地域との繋がりを生かしていきたい。

質問 職員の能力を発揮させるために心がけていることは。

答 仕事の大まかな方向性を決めたくて個々の仕事は職員に任せる体制にしている。

意見 英語教育の統一性を図ってほしい。

答 教育委員会とも相談する。

「これまで」より「これから」を大切に



令和4年8月より永平寺町議会に新人議員5人が誕生しました。年齢は60代1名、50代2名、40代1名、30代1名、経歴は行政出身者2名、事業者3名とバランスが取れています。中でも酒井議員と森山議員は県外出身者という事で異色のメンバーであります。当選以降、月1回を目安に「同期会」と称し、議会において議論に挙がっている事柄や、永平寺町の未来について熱く語り合う場を設けております。現在いろんな分野で、昭和から続けてきたものが過渡期に来ていることは間違いありません。「これまで」より「これから」を大切に、次の世代により良いバトンを渡すことが出来るよう、永平寺町議会に新しい風を吹かせたいと5人全員が考えております。令和5年も精進して参りますので、どうか宜しくお願い致します。

編集者のひと言

新年あけましておめでとうございませう。

光陰矢の如しとはよく言ったもので、新人議員5人が当選して早くも半年が過ぎ、議会に新風を吹き込んでいます。

この議会広報「みでの」の内容も新年度から改革を加えていこうと話合っています。勿論、過去から引きつながら来てきたことも大切にしながら町民の皆様が手に取って読んでみたくなるような紙面を作り上げたいと委員会メンバーで知恵を絞って合っています。

次号令和5年度発行の議会広報「みでの」をご期待ください。

(長岡 記)

議会広報特別委員会

委員長 長川 崎 直文
副委員長 長岡 千恵子
委員 酒井 圭治・森山 充
滝波 登喜男・松川 正樹

発行責任者

議長 中村 勘太郎